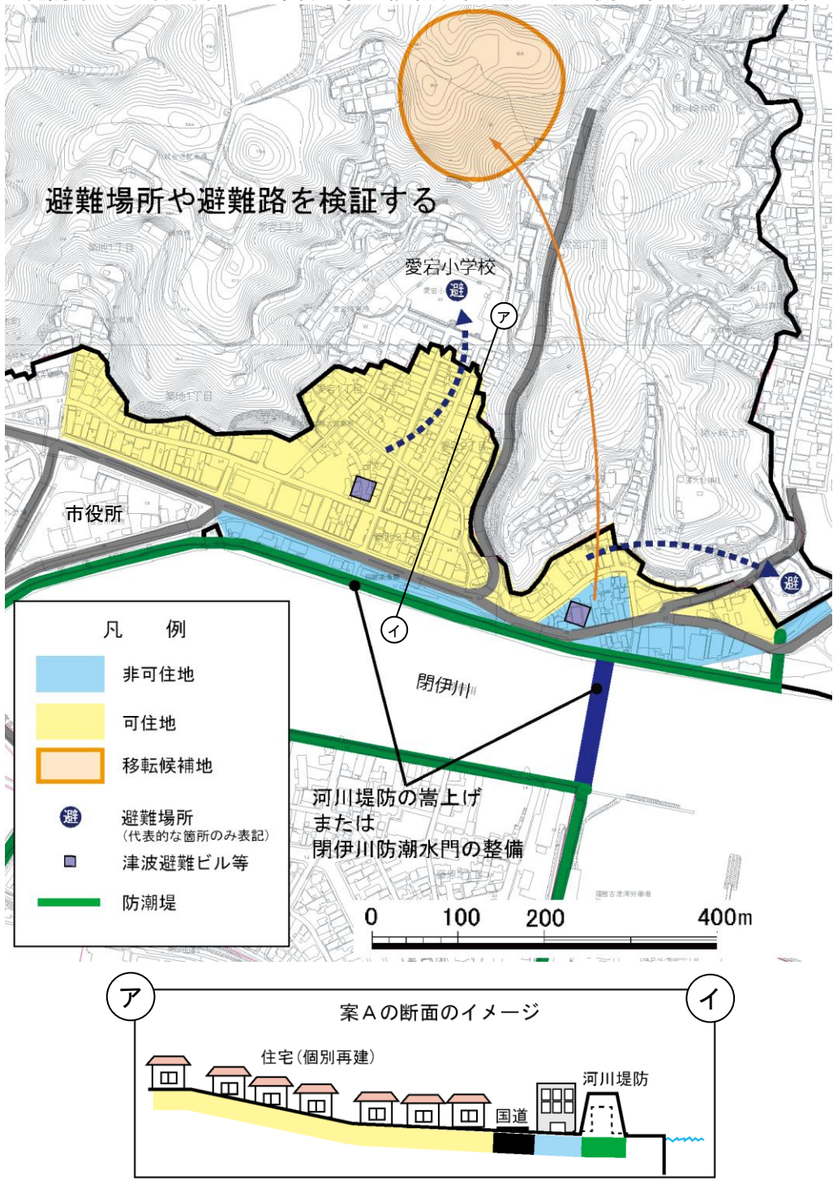
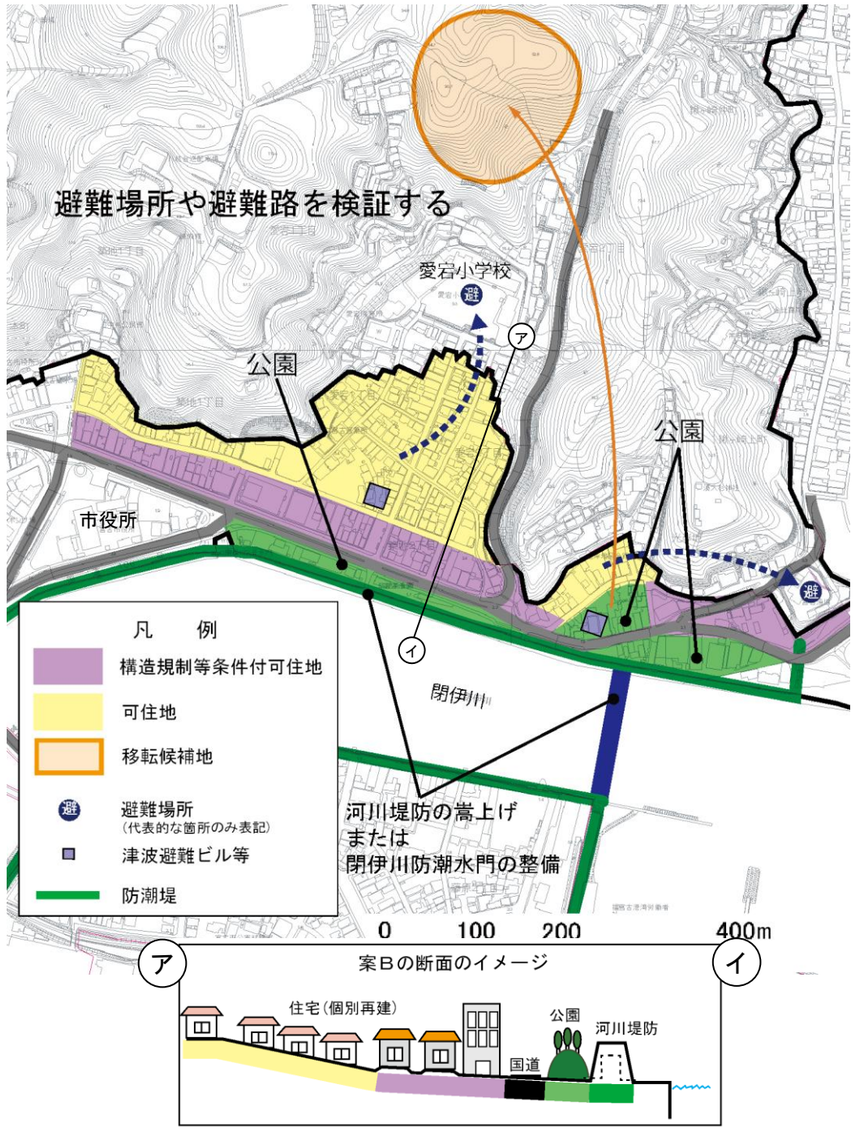
■愛宕・築地・光岸地地区の復興パターン案について

被害の状況	・ 津波が防潮堤を越流し、45 号沿線の建物を始めとし、住宅等が大きな被害を受けた。 ・ 浸水面積は 12.2ha にわたり、浸水高は TP+3.4～7mとなり、最大浸水深は 5.3mに達した。 ・ 浸水区域内の建物の 47.8%が流失または撤去となる被害を受けた。	
復興まちづくりの考え方	・ 比較的頻度の高い津波※1 に対しては、防潮堤等のハード整備により防ぎ、今後、起こりえる最大クラスの津波※2 に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせた多重防災型まちづくりを行う。 ・ 住宅地は、予想浸水深※3 の大きい区域を高台等への移転による確保を検討するとともに、小さい区域は、予想される建物被害の状況に応じ現地再建及び建物の構造規制を組み合わせる。 ・ 非可住地であっても、安全に避難できるよう避難路の整備や津波避難ビル等の整備を行う。	
復興パターン案 イメージ図	案Ａ：河川堤防沿いは非可住とし高台等へ移転、国道より山側は従来どおり可住地とする。  	案Ｂ：河川堤防沿いは公園とし、国道沿線を構造規制とすることで、より安全性を高める。 
特　　徴	・ 現地で従来どおり再建できる面積が案Ｂに比べ広い。 ・ 非可住地内の住宅は、背後の高台等への移転が必要となる。	・ 予想浸水深が大きい区域や、防潮堤からの落下水による危険が伴う区域を公園にすることにより建物被害等を抑えることができる。 ・ 公園区域内の住宅は、背後の高台等への移転が必要となる。

※１ 概ね数十年から百数十年に一度程度で発生すると想定される津波　※２ 今回と同様の津波　※３ 今後、起こりえる最大クラスの津波により予想される浸水の深さ